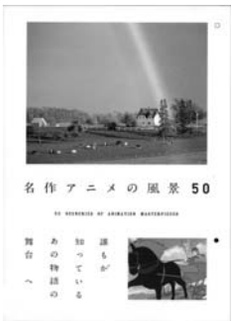
BOOKS OF THE YEAR 2011 Vol.2

南部町の図書館職員が選ぶ、今年読んだ本の中で一番心に残った本の紹介「ＢＯＯＫＳ ＯＦ ＴＨＥ ＹＥＡＲ ２０１１」第２弾！未読の方はぜひ読んでみてください。　【（　）内は職員のペンネームです】

『名作アニメの風景50』



ピエ・ブックス

誰もが一度は見たことがある名作アニメに出てくる風景…。本当にあんなに美しい場所があるんですね！！私は特に「魔女の宅急便」でキキが住んだ街のモデルになったスウェーデンのストックホルムがお気に入りです。こんな街に私も住んでみたいな～♪　（帰蝶）

『love letters』

おおたうに／ポプラ社

書架整理にまわっていたときにたまたま見つけました。著者のイラストレーターさんが大好きで自分でも持っています。恋をしたときの気持ちなどが素直に詩にしてあり、その詩に可愛らしいイラストがついているのでお気に入りののひとつです。　（真田幸村）

『円卓』

西加奈子／文藝春秋

三つ子の姉と両親、祖父母の７人に囲まれ、狭い団地で暮らす「こっこ」こと琴子。孤独にあこがれ、ちょっと口が悪くて偏屈な小学３年生の成長を描く。テンポのよい関西弁が飛び交い、ツッコミ満載。登場人物も皆、魅力的。　（吉田兼好）

『パンプキン！摸擬原爆の夏』

令丈ヒロ子（れいじょう）／講談社

この本を読むまで「摸擬原爆」の存在をよく知りませんでした。各地に投下されたパンプキン爆弾が、広島・長崎の原爆投下に繋がったという事実。児童向けなので、分かりやすく書いてあります。大人にも読んでもらいたい１冊です。　（田中絹代）

『法勝寺電車　三両目のキセキ』

水平宏（みずひらひろし）／日本写真出版

大正13年から昭和42年まで、米子―法勝寺間を走っていた法勝寺電車を舞台に描かれた物語。登場人物の心の動きや言動がじわりと読者の心に響きます。きっとあなたにとっての大切な１冊になりますよ。　（カエサル）

『卵のふわふわ　八丁堀喰い物草紙・江戸前でもてなし』

宇江佐真理（うえざまり）／講談社

北町奉行所同心で喰い道楽の忠右衛門とその息子の嫁、のぶとの会話を中心に始まる物語。いつの時代も夫婦や家族関係の悩みは変わらないのか…などと思いつつ、ちょっとせつなく、でもほっとするような１冊です。　（篤姫）

『弦と響』

小池昌代（こいけまさよ）／光文社

30年の歴史に幕をおろすことになった、ある弦楽四重奏団をめぐる物語。カルテットのメンバー、その妻、元恋人、マネージャー、ホールの清掃係…。ひとつの音楽集団にかかわった様々な人間の思いや人生観が１人一章ずつ紡がれていく。そしてむかえた最後の演奏会で奏でられた弦の響きは何を彼らに残していったのか。“何”とはいえない奇妙な残響がいつまでも心に沈む作品。（ラ・トゥール）

『ひともじえほん』

こんどうりょうへい／福音館書店

“ひともじ”とは、人文字のことです。人の体で文字をつくるのです。
ひとりで、ふたりで、さんにんで、みんなで！！
50音ちゃんとできます。さあ、文字に見えるか見えないか、わいわい言いながら読んでみてください。　（江）

★こちらに掲載の本はすべて町立図書館に所蔵しています。貸出中の本は予約ができますので、お気軽に図書館員にお尋ねください。（注：ご紹介した本は今年出版されたものに限りません）